

11月は、冬の始まりとされる二十四節気の「立冬」を過ぎると、暖かな小春日和と寒い日を繰り返しながら、寒さが深まっていきます。同時にだんだんと空気も乾燥していきますね。

ウイルスや細菌は「乾燥した空気」が大好き。マスク、手洗い、うがいの徹底を更に心掛けていきましょう。

子育て支援教室

「えいごで遊ぼう A・B・C!」

日時：令和3年11月12日（金）10:30～11:30

対象：1歳以上のお子さんと保護者 10組まで

場所：子育て支援センター

申込期間：11月4日（木）～11日（木）

参加費：無料

申込先：63-0070（子育て支援センター）

「えいご」を使って歌ったり、踊ったり(^^♪
みんなで楽しい時間を過ごしましょう

♡ご参加、お待ちしております♡

11月の行事予定

11日（木）わたっこ広場で子ボラさんと遊ぼう！

10:30～11:30 頃

18日（木）遊・友・YOU（ひよこ・うさぎ）

10:30～11:30

24日（水）わたっこ Baby 広場

10:30～11:30

※今後の支援センター各行事予定等につきましては、
新型コロナウイルス感染症感染拡大状況により、
中止になる場合があります。



『0・1・2歳児の大切な時間 絵本のススメ①』

コロナ禍でお家時間が増える中、子どもといたい何をして遊ぼうか…と保護者の方々は頭を悩ませているのではないのでしょうか。そんな中、絵本が売れているそうです。コロナ禍で増えたおうち時間に、親や祖父母らが子どもに読み聞かせをしている、ということです。その普遍的テーマゆえ、あらためて大人がはまることもあるのだそうです。スマホからちょっと離れて、世代の垣根を越えた世界を楽しんでみてはどうでしょうか。

絵本と出会い、絵本を読みあう

絵本は、大人が与え、示し、教えるという一方通行なイメージではなく、大人と子どもが「読みあう」という相互作用のうえに成り立つものなそう。0歳児でも早いということではなく、そして1・2歳児のときにこそ、絵本との出会いを経験していただきたい。多くの子どもは、描かれているものの色や形、言葉や音の響き、ページをめくる動作、あるいはあまり興味をもたず、はじめは無関心ということもあるかもしれませんが、それはそれでいいということです。自分を大切に思ってくれる人が、絵本を通して自分と向き合っていることに気づく、そこに意味がある、ということです。その子に関心を寄せたときには、何を見ているのか、何に興味を持ったのか、と一っしょに探りあっていくような絵本の活用の仕方をしていったらどうか、ということです。



壁に絵を飾るように絵本を飾る

子どもがいつでも絵本と出会えるように、絵本を
に目を留め、「なんだろう？」と見つめていたら、「見てみる？」と絵本を開いてみる。大人のタイミングで一方的に「与える」のではなく、自発性が生まれる環境で子どもが自分で選ぶ、ということをこの時期から始めてみるとよい、ということです。

飾っておくとよい、ということ。子どもがそれ

※子育て支援センターにおいても、絵本の貸し出しを行っています。絵本を通じて、子どもとのひと時をいっしょに楽しんでみませんか。

*** 東京都の新規感染者数が連続で千人を下回っています。これをどのように見るのか。**

新規陽性者数が順調に減少していて、第5波は収まりつつあり、医療のひっ迫についても、解消されつつある。

*** 子どものワクチン接種についてはどうか。**

ファイザー社のワクチンについては、アメリカで昨年から6か月以上、11歳以下の子どもに対して、臨床試験を実施している。子どもは大人に比べると、重症化しにくいといわれている。しかし、数は多くないが、「小児多系統炎症性症候群」という臓器の炎症による重篤な状態に陥ることがあり、これは日本でも確認されている。軽傷な状態で済んだ子どもでも、感染後に後遺症として倦怠感や、集中力の低下、呼吸困難などが起こることがあり、日常生活に深刻な影響を受けることになる。なので、子どもの感染を防ぐためにワクチンという選択肢が増える、というのはよいことだと考えている。おそらく日本でも、今後11歳以下の子どもへの接種が、どこかのタイミングで始まるのではないかなと思う。

*** 一方で、幼い子どもへの接種というのは、躊躇したり戸惑う親御さんも多いのでは。**

11歳以下の子どもへのワクチンは、それ以上の年齢に比べてその投与量は少なくなるが、ワクチンの効き方や、副反応はほぼ変わらないと報告されている。日本でも接種が始まったら、その前から厚労省やCOV-Navi（こびナビ）といった情報サイトでQ&Aが公開されると思うので、まずは正しい情報にアクセスしてほしい。あと、接種したお子さんを持つ方々に、経験談を聞いてみたらよい。身近な方の実体験を知るとというのは、安心感につながると思われる。

*** 9月末の政府の発表によると、2回目の接種を終えた人は、全人口のおよそ54%。高齢者では、88%を超えている。この数字から見ると、今後の感染の状況はどういうことになるか。**

新型コロナ感染症対策分科会で、京都大学の古瀬さんという方が行ったシミュレーションが示されている。今後、ワクチン接種率が60歳代以上で90%、40～50歳代で80%、20～30歳代で75%、そこまで進んだ場合、更にそれに加えて、今私たちが行っているようなマスクの着用、3密を避けるといった基本的な感染対策を継続すれば、感染者や重傷者数の増加、急増が抑えられて、緊急事態宣言を出すにしても、年に1回出すか出さないかで済むという試算がある。

この目標値は、上記の接種率に至らなければ、これまでのように年に大きな波が繰り返して起こるということに…そういう試算になっているので、やはり、接種率をかなりのレベルまで推し進めつつ、基本的な対策を継続する必要がある、ということがわかる。次の波（第6波）が来る可能性はまだまだ高いので、気を付けないといけない、ということが言える。基本的な対策を続けつつ、ワクチンを進めていく、ということになる。

*** これから秋が深まって、寒い時期を迎えます。用心した方がよいことは。**

2020年の暮れから、2021年頭にかけてインフルエンザ感染者が例年よりも非常に少なかったですね。これは、多くの方が、マスク着用などの感染対策を実施していただけでなく、おそらく人との接触自体を控える方が多かったためだと考えられています。そのため、インフルエンザに対する免疫がない、あるいは弱まったまま今年の冬を迎える方が多いので、もしかしたら今年はインフルエンザの感染者が増える恐れがあるんじゃないかということが言われています。なので、インフルエンザのワクチン接種についても、積極的に検討していただきたいと考えている。

感染する機会がなかった方や、病院へ行くのをためらってワクチン接種しなかった方もいると思う。そう考えると、もし今年は人との接触が増えて、インフルエンザが流行しだすと、少なくとも去年よりは増えてくる可能性があると考えてよいと思われる。

*** 6月頃までに2回の接種を終えているにもかかわらず、多人数の感染が確認されるという事態が発生している。どう考えたらよいか。**

いわゆる、ブレイクスルー感染と呼ばれているものだと思う。今国内で主流のデルタ株というのが、もともとワクチンの効果を弱めてしまう性質がある、というのと日本で接種されているm-RNAワクチンが、接種から時間が経過するにつれて、効果が弱まる可能性が指摘されている。



半年とか10カ月経ってくると、打った当初よりは効果が弱まる。そのため、3回目のブースター接種と呼ばれる追加接種の必要性や時期が議論されているところ。ただ、2回の接種に感染予防効果がないとか、意味がないということではありません。あと、重症化予防効果というのが非常に高い。なので、やはりワクチン接種の意義はある、ということになると思われる。

油断できる状況ではないということであり、基本的な対策は続けつつ、ワクチン接種を積極的に検討することが大事です。

元気なわたっこ（度会町の子ども）たち



♡滑り台の頂上は、落ち着くなぁ…
ポーズも決まりました♡



♡わたしもキュートに
決めてみたよ♡



♡見合って見合ってー
かわいい力士登場🐾



♡ちょっと覗いてみたよ、チラッ
かわいく撮れました😊



♡ケーキおいしそう…
食べちゃおうかな、どうしようかなー
迷うなぁ… 🍰



※わたっこ広場は、8月25日（水）～9月30日（木）まで、
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため閉所していました。
わたっこ（度会町の子ども）達はその間にも、大きく成長された
と思っています。

☆子育て相談を行っています☆ 電話番号：63-0070 【秘密厳守】